

CASE
10

山の壽酒造株式会社

高品質特定名称酒の
携帯端末醪温度管理システム
による製造能力強化モデルの確立

醪温度管理を携帯端末を使ってシステム化し、
タンクもコンパクトにして遠隔操作も導入しました。

代表取締役 片山 郁代



DATA

山の壽酒造株式会社

代表者 代表取締役
片山 郁代

所在地 〒830-1125
福岡県久留米市
北野町乙丸1・2合併番地

TEL 0942-78-3025

FAX 0942-78-4673

URL <http://yamanokotobuki.com>

業種 酒類製造業

資本金 1000万円

創業 1818年

社員数 3人



1 PICKUP STORY

酒質を左右して人の負担が大きかった温度管理をシステム化する

創業の文政元年（1818年）から培ってきた技術を守りつつ、社長をはじめとする若い感性を生かした酒造りに取り組んでいます。麹や醪の温度をテーマにしたシステム化に乗り出したのは、温度管理こそ品質を大きく左右する要素で、作業者の負担が大きかった業務だったからです。またシステム導入は伝統的な杜氏制による酒造りから新しい形の酒造りを目指す一環でもありました。

2 PICKUP STORY

どこでも温度を確認。温度調整しやすいようタンクを小型化

酒造工程での温度管理は、麹や醪そのものが発する熱と気温を注意しながら、氷や水を使う調整です。その精度は0.5℃の差。あらゆる作業工程で何度も温度を測ります。管理が特に重要な時期は徹夜で温度をみて寝不足になるのが当たり前の世界でした。

導入したシステムは離れた場所でも複数あるタンクごとの温度がリアルタイムで分かり、記録します。グラフ化が可能で、温度変化が分かりやすく、予測にも活用できます。困んだパイプに水を流して温度調整ができるタンクは、調整しやすいよう小型化しました。



システムで高品質な日本酒と従業員の時間を生み出す

3 PICKUP STORY

負担が軽減され、情報共有が一体感を生む

システム導入でスマートフォンなど携帯端末で温度確認ができるようになりました。それに



は温度を測る手間を減らすとともに情報共有を進めたいとの思いがあります。かつての温度管理は、測るために手洗いや着替えが必要で杜氏に任せきりでした。今では休憩時間でも確認でき、複数での情報共有が可能です。従業員の一体感が高まり、温度や天候の予想に合わせて今後の対応を話し合うようになっています。

杜氏の退職による酒質の変化で固定ファンが一時離れたこともありましたが温度管理



の高度化で品質を維持、向上させて全体の売り上げはすぐに盛り返しています。2018年の第7回福岡県酒類鑑評会では純米吟醸酒・純米酒の部で福岡県知事賞と金賞を受賞しました。

COLUMN

人が考え、育ち、働き続けられる会社

QUESTION 1 補助金を使った理由を教えてください。

自己資金や融資でもシステムを作れたでしょうが91年の台風で大きな被害を受けた経験から、使える制度は活用したいと考えるようになりました。

QUESTION 2 システムを運用していかがですか？

会社が大きな節目の時期でタイミングが良かったです。設備業者のアドバイスもあり、さまざまな機器を組み合わせることで当社にちょうどよいシステムができました。

QUESTION 3 システムをどのように生かしていきますか？

できた時間で勉強できるようにしたいです。人が考えて育つ会社になりたいと思っています。従業員がずっと働ける会社にするために努力します。



ここがポイント

コミュニケーションを密にして現場に合うシステム

システムの整備では設備業者とコミュニケーションを取り、目指す酒造りや生産の規模に合ったシステムにしました。酒造工程を良く知る施工業者だったためコストを抑えながらのシステム構築も実現しています。

山の壽酒造株式会社の
ストーリーを動画でもチェック！

補助金の成果や現場の声を、右のQRコード、または下記URLからもご覧いただけます。
<http://fukuoka-monohojo.com/case10>

CHECK!

